

## 産科婦人科学（－Obstetrics & Gynecology－）

### I 教育の基本方針

産科婦人科学の学問体系は、周産期医学、生殖内分泌学、婦人科腫瘍学、女性医学の4分野に大別される。産科婦人科学教室の研究テーマもこの4領域すべてを対象としている。大学院でも、上記のいずれかのテーマを対象として、指導医の指導のもと、研究を行うことになる。大学院卒業後は海外留学も視野に入れ、国内だけでなく国外での研究発表も義務付けている。いずれの研究も clinical evidence に立脚したテーマとなるよう心がけており、研究の結果得られた成果を臨床にフィードバックできることを常に念頭において研究を進めている。

### II 年次毎の到達目標

1年次	各疾患について幅広い知識を習得し、診断・検査・手術手技を身につける。
2年次	各疾患の病因と病態に関する研究手法を修得、研究計画を立案し、研究を開始する。
3年次	計画に則って研究を実施し一定の成果を目指す。
4年次	研究成果を原著論文にする。学位取得。

### III 担当教員・研究テーマ

教授	小林 陽一	子宮内膜症とその癌化の病態、間質細胞と癌浸潤の関連性、メラトニンと婦人科癌
教授	谷垣 伸治	周産期医学

### IV 研究指導補助教員

講師 松本浩範  
 講師 百村麻衣 西ヶ谷順子 澁谷裕美 田中 啓  
 助教 松島実穂 松澤由記子 三沢昭彦

### V 授業科目一覧

種別	科目名	単位	開講時期	標準履修年次
講義・演習	講義・演習	4	半期	1年次
実験・実習	実験・実習	8	通年	2年次又は、1－2年次
専門分野 共通科目	課題研究	8	通年	3年次又は、2－3年次
	研究論文演習	4	通年	3年次又は、4年次

開講年度	2019	開講時期	半期	標準履修年次	1年次	単位	4
科目名	講義・演習						
担当教員	小林陽一、(未定1-2名)						
曜日・時限等	春学期：月曜日 4・5時限 (15:00-16:30・16:45-18:15) 秋学期：月曜日 4・5時限 (15:00-16:30・16:45-18:15)						
教室等	A MF-ICUカンファレンスルーム B 1-4カンファレンスルーム C 婦人科外来、1-2 IVFルーム D 基礎棟 病理学教室カンファレンスルーム						
教育の基本方針	広い見地に立った研究を遂行できるよう、産科婦人科学において必要とされる専門知識と技能を培う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠、分娩に関わる疾患の病態生理について生殖生物学、基礎医学の観点から理解し、新しい治療に結びつくアイデアを創造できる能力を身につける。</li> <li>2. 病理学的知識が必須であるので、細胞診の知識、組織診の知識を習得する。</li> <li>3. 緩和医療の基本的知識を習得する。</li> <li>4. 女性医学における生殖内分泌学の基礎ならびに臨床的研究を行う専門的知識と能力を養うことを目標とする。</li> <li>5. 婦人科疾患の中で悪性腫瘍、即ち子宮頸がん・体がん、卵巣がんについて、その疫学、病態、診断、治療を学ぶとともに、病理学的知識(細胞診・組織診)について理解することにより悪性腫瘍をいかに管理していくかを学ぶ。</li> </ol>						
学習内容	産科婦人科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。						
授業計画	回数	講義内容	担当	会場	春学期	秋学期	
	第1回	周産期医療①	谷垣	A	04/15	09/30	
	第2回	周産期医療②	谷垣	A	04/22	10/07	
	第3回	周産期医療③	谷垣	A	05/13	10/21	
	第4回	周産期医療④	谷垣	A	05/20	10/28	
	第5回	研究論文演習	谷垣	A	05/27	11/18	
	第6回	婦人科腫瘍①	小林	B	06/03	11/25	
	第7回	婦人科腫瘍②	小林	B	06/10	12/02	
	第8回	婦人科腫瘍③	小林	B	06/17	12/09	
	第9回	婦人科腫瘍④	小林	D	06/24	12/16	
	第10回	課題研究	小林	B	07/01	12/23	
	第11回	生殖医療①		C	07/08	01/06	
	第12回	生殖医療②		C	07/22	01/20	
	第13回	生殖医療③		C	07/29	01/27	
	第14回	生殖医療④		C	08/05	02/03	
	第15回	生殖医療⑤		C	08/19	02/10	
講義終了後、試問を行いフィードバックを行う。							
準備学習と授業外の学習方法	授業計画のテーマについて事前に文献などを調べてくること。 学習指導書等に挙げた文献・参考書等を学期中に読むこと。 専門領域における他科のカンファレンスに参加し知識を深める。 CITI Japan(e-learning)の医学研究者標準コース(15単元)を受講すること。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	Prenatal and Perinatal Biology and Medicine (Harwood Academic Pub) Practical gynecologic oncology (Berek Hacker) Principle and practice of gynecologic oncology (Hoskins, young, Barakat et al.) 産婦人科病理学診断図譜 (宮地、森脇、桜井) Yen and Jaffe's Reproductive Endocrinology Physiology, Pathophysiology and Clinical Management, Jerome Strauss, Robert Barbieri, W. B. Saunders, 2004. Principles and practice of Gynecologic Oncology (Fours edition) Hoskinsら LWW 現代の婦人科細胞診 杉下他 金原出版、産婦人科病理学診断図譜 宮地徹他 杏林書院 新コルポスコピースタンダードアトラス日本婦人科腫瘍学会2005 学会編集 中外医学社 Williams Obstetrics (Mcgraw-Hill) その他、必要に応じて随時資料を配布する。						
成績評価方法	講義内容についてのレポート提出 (30%) 口頭試問の実施 (35%)、筆記試験の実施 (35%)						
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 <a href="http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni_v/graduate/medicine/aboutus/outline/">http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni_v/graduate/medicine/aboutus/outline/</a>						
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。 質問等の受付は随時。連絡先：小林PHS；7496						

開講年度	2019	開講時期	通年	標準履修年次	2年次又は、1-2年次	単位	8
科目名	実験・実習						
担当教員	研究テーマにより決定する。						
曜日・時限等	原則として、毎週水曜日の午前中（1・2時限）並びに、午後（3・4・5時限） ※参加が難しい場合には各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。						
教室等	病棟、外来、中央手術室						
教育の基本方針	広い見地に立った研究を遂行できるよう、産科婦人科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エビデンスに基づいた産科手技と治療法を理解し、応用できる能力を身につける。</li> <li>2. 女性性器がん患者を診た時に、正しい診断、適切な治療ができるように診断能力、治療能力（手術技量も含む）の向上を目指す。</li> <li>3. 高度生殖医療の一つである体外受精・胚移植、顕微授精に関する基礎や手技から得られる様々な情報を用いて、生殖内分泌の基礎的研究を行うための基本技術を修得する。</li> </ol>						
学習内容	研究テーマにより決定する。						
授業計画	第 1- 60回 到達目標1～2の達成 第61-120回 到達目標3の達成  実習内容については適宜試問を通じてフィードバックを行う。						
準備学習と授業外の学習方法	学習した実験手技を繰り返し行い、安定で信頼性の高い技術を修得する。 研究テーマに沿った原著論文を読み疑問点を抽出すること。 学習指導書等に挙げた文献・参考書等を学期中に読むこと。 専門領域における他科のカンファレンスに参加し知識を深める。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	Prenatal and Perinatal Biology and Medicine (Harwood Academic Pub) Practical gynecologic oncology (Berek Hacker) Principle and practice of gynecologic oncology (Hoskins, young, Barakat et al.) 産婦人科病理学診断図譜 (宮地、森脇、桜井) Yen and Jaffe's Reproductive Endocrinology Physiology, Pathophysiology and Clinical Management, Jerome Strauss, Robert Barbieri, W. B. Saunders, 2004. Principles and practice of Gynecologic Oncology (Fours edition) Hoskinsら LWW 現代の婦人科細胞診 杉下他 金原出版、産婦人科病理学診断図譜 宮地 徹他 杏林書院 新コルポスコピースタンドアトラス日本婦人科腫瘍学会2005 学会編集 中外医学社 Williams Obstetrics (Mcgraw-Hill) その他、必要に応じて随時資料を配布する。						
成績評価方法	実験内容のレポート提出 (30%) 口頭試問の実施 (35%)、筆記試験の実施 (35%)						
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 <a href="http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni v/graduate/medicine/aboutus/outline/">http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni v/graduate/medicine/aboutus/outline/</a>						
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。 質問等の受付は随時。						

開講年度	2019	開講時期	通年	標準履修年次	3年次又は、2-3年次	単位	8
科目名	課題研究						
担当教員	研究テーマにより決定する。						
曜日・時限等	履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※参加が難しい場合には各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。						
教室等	病棟、外来、中央手術室						
教育の基本方針	研究テーマに関する実験・調査を反映させた研究計画を立てて、実際に研究を行い、その結果をまとめ、論旨をもって発表することを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。</li> <li>2. 正しく統計処理ができる。</li> <li>3. 結果を科学的に図表にまとめられる。</li> <li>4. 実験内容を正しく記載し記録できる。</li> <li>5. 追加実験を自分で立案できる。</li> <li>6. 学会や医学研究科の研究報告会で発表できる。</li> </ol>						
学習内容	研究テーマにより決定する。						
授業計画	第 1- 10回 先行研究について 第 11- 15回 研究方法の検討 第 16- 99回 実験実施と検討 第100-120回 追加実験の検討  課題レポートに対するフィードバックはコメントを入れて返す。						
準備学習と授業外の学習方法	学習した実験手技を繰り返し行い、安定で信頼性の高い技術を修得する。 研究テーマに沿った原著論文を読み疑問点を抽出すること。 学習指導書等に挙げた文献・参考書等を学期中に読むこと。 専門領域における他科のカンファレンスに参加し知識を深める。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	Prenatal and Perinatal Biology and Medicine (Harwood Academic Pub) Practical gynecologic oncology (Berek Hacker) Principle and practice of gynecologic oncology (Hoskins, young, Barakat et al.) 産婦人科病理学診断図譜 (宮地、森脇、桜井) Yen and Jaffe's Reproductive Endocrinology Physiology, Pathophysiology and Clinical Management, Jerome Strauss, Robert Barbieri, W. B. Saunders, 2004. Principles and practice of Gynecologic Oncology (Fours edition) Hoskinsら LWW 現代の婦人科細胞診 杉下他 金原出版、産婦人科病理学診断図譜 宮地 徹他 杏林書院 新コルポスコピースタンダードアトラス日本婦人科腫瘍学会2005 学会編集 中外医学社 Williams Obstetrics (Mcgraw-Hill) その他、必要に応じて随時資料を配布する。						
成績評価方法	研究成果の発表 (100%)						
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 <a href="http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni v/graduate/medicine/aboutus/outline/">http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni v/graduate/medicine/aboutus/outline/</a>						
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。質問等の受付は随時。						

開講年度	2019	開講時期	通年	標準履修年次	3年次又は、4年次	単位	4
科目名	研究論文演習						
担当教員	研究テーマにより決定する。						
曜日・時限等	履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。						
教室等	病棟、外来、中央手術室						
教育の基本方針	研究テーマに関する実験・調査を反映させた研究計画を立てて、実際に研究を行い、デその結果をまとめ、論旨をもって発表することを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の成果を原著論文とする。</li> <li>2. 国内外の学会、ポスターセッション、症例報告会等で発表を行い、質問者からの問いに適切に答えられるようにする。</li> <li>3. 博士論文の完成</li> </ol>						
学習内容	研究テーマにより決定する。						
授業計画	第 1- 5回 論文データ収集 第 6-10回 引用可能な文献の選抜 第11-15回 論文の全体の流れの確認。 第16-30回 学位論文作成  評価内容については研究室ミーティングでディスカッションしフィードバックする。						
準備学習と授業外の学習方法	今回指導した内容に基づき次回までに論文原稿の当該箇所を修正しておくこと。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	Prenatal and Perinatal Biology and Medicine (Harwood Academic Pub) Practical gynecologic oncology (Berek Hacker) Principle and practice of gynecologic oncology (Hoskins, young, Barakat et al.) 産婦人科病理学診断図譜 (宮地、森脇、桜井) Yen and Jaffe's Reproductive Endocrinology Physiology, Pathophysiology and Clinical Management, Jerome Strauss, Robert Barbieri, W. B. Saunders, 2004. Principles and practice of Gynecologic Oncology (Fours edition) Hoskinsら LWW 現代の婦人科細胞診 杉下他 金原出版、産婦人科病理学診断図譜 宮地 徹他 杏林書院 新コルポスコピースタンドアトラス日本婦人科腫瘍学会2005 学会編集 中外医学社 Williams Obstetrics (Mcgraw-Hill) その他、必要に応じて随時資料を配布する。						
成績評価方法	論文の作成 (100%)						
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 <a href="http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni v/graduate/medicine/aboutus/outline/">http://www.kyori-n-u.ac.jp/uni v/graduate/medicine/aboutus/outline/</a>						
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。質問等の受付は随時。						